

# 令和6年度「新学術領域研究(研究領域提案型)」に係る事後評価結果

領域番号	領域略称名	研究領域名	領域代表者	評点
5101	出ユーラシア	出ユーラシアの統合的人類史学:文明創出メカニズムの解明	松本 直子(岡山大学・文明動態学研究所・教授)	A
6101	量子液晶	量子液晶の物性科学	芝内 孝禎(東京大学・大学院新領域創成科学研究科・教授)	A+
6102	中緯度大気海洋	変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用hotspot	野中 正見(国立研究開発法人海洋研究開発機構・付加価値情報創生部門(アプリケーションラボ)・グループリーダー)	A
6103	機能コア科学	機能コアの材料科学	松永 克志(名古屋大学・大学院工学研究科・教授)	A
6104	水圏機能材料	水圏機能材料:環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成	加藤 隆史(東京大学・大学院工学系研究科・教授)	A+
6105	地下宇宙研究	地下から解き明かす宇宙の歴史と物質の進化	井上 邦雄(東北大学・ニュートリノ科学研究センター・教授)	A
6106	ハイパー物質	ハイパーマテリアル:補空間が創る新物質科学	田村 隆治(東京理科大学・先進工学部・教授)	A
6107	蓄電固体界面科学	蓄電固体デバイスの創成に向けた界面イオンダイナミクスの科学	入山 恭寿(名古屋大学・工学研究科・教授)	A+
7101	多経路自食作用	マルチモードオートファジー:多彩な経路と選択性が織り成す自己分解系の理解	小松 雅明(順天堂大学・医学部・教授)	A+
7102	全能性プログラム	全能性プログラム:デコーディングからデザインへ	小倉 淳郎(国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター・副センター長)	A
7103	非ゲノム情報複製	多様かつ堅牢な細胞形質を支える非ゲノム情報複製機構	中西 真(東京大学・医科学研究所・教授)	A
7104	植物の周期と変調	細胞システムの自律周期とその変調が駆動する植物の発生	中島 敬二(奈良先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・教授)	A
8101	高速分子動画	高速分子動画法によるタンパク質非平衡状態構造解析と分子制御への応用	岩田 想(京都大学・医学研究科・教授)	A+
8102	超適応	身体-脳の機能不全を克服する潜在的適応力のシステム論的理解	太田 順(東京大学・大学院工学系研究科・教授)	A
8103	生命金属科学	「生命金属科学」分野の創成による生体内金属動態の統合的研究	津本 浩平(東京大学・大学院工学研究科(工学部)・教授)	A
8104	生命の情報物理学	情報物理学でひもとく生命の秩序と設計原理	岡田 康志(東京大学・医学系研究科・教授)	A
8105	対話知能学	人間機械共生社会を目指した対話知能システム学	石黒 浩(大阪大学・基礎工学部・教授)	A-
8106	ポストコッホ生態	超地球生命体を解き明かすポストコッホ機能生態学	高谷 直樹(筑波大学・生命環境系・教授)	A

令和6年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	6104	領域略称名	水圏機能材料
研究領域名	水圏機能材料：環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成		
領域代表者名 (所属等)	加藤 隆史 (東京大学・大学院工学系研究科・教授)		

(評価結果)

A+ (研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる)
-----------------------------------

(評価結果の所見)

<p>本研究領域は、既存学問分野の枠を超えた新興・融合領域の創成を目指すという目標を掲げ、多彩な分野の研究者が「水」と「材料」の相互作用を分子レベルおよびナノ集合レベルで検討し、水圏機能材料の創成という共通課題において顕著な成果を挙げている。特に、計測技術と計算科学の進展により、「つなぐ」「はたらく」「つくる」の3つのサブグループで優れた成果が挙げられている。これにより、「水環境（水圏）で機能する材料の構築学」と「水の基礎物性科学」の融合が進み、水圏機能材料および水圏機能材料構築学という新学術領域の形成に向けて著しく前進した。これらの成果は、設定された目標を十分に達成し、期待を上回るものであると認められる。</p> <p>中間評価結果で指摘された事項についても適切に対応され、研究成果としては、水処理膜、生体親和性コーティング、分子接着剤、イオン捕捉材料や電子・イオンセンサーの創出など、社会実装への足掛かりも得ている。研究者間の有機的な連携により、化学と物理、実験と理論・シミュレーション、合成と構造・物性といった分野で統合された成果が挙げられた。成果の質・量ともに十分であり、アウトリーチ活動を通じた成果の普及にも努めている。また、若手研究者の育成にも十分な配慮がなされ、当該分野の継続と発展が期待できる。今後も、この学術分野を更に発展させてほしい。</p>
---